

01 背景

区画整理を経て地区の管理の仕組みが変わります。

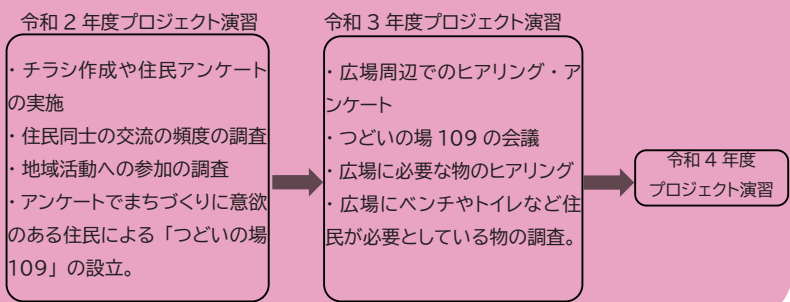
そこで、今、地区の持続性が問われています。

小山東部第一地区では土地区画整理事業が行われている。小山駅や幹線道路が近く、地区のシンボルである平成通りは広く歩道が整備され、街路樹の緑も豊かな住みやすい環境。区画整理事業完了後は、道路や植栽など管理主体が小山東部第一土地区画整理組合から小山市に移管する。

そのため、今まで組合が行ってきた管理が出来なくなることから地区の持続性が問われています。



地区の持続性を保つていくために様々な活動をしてきました。



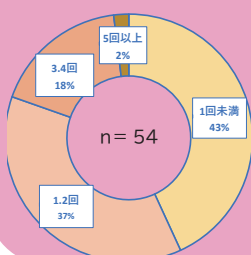
02 目的

小山市や組合といった自治体だけでなく、地域住民を巻き込んだまちづくりが必要です。

本問題の解決には、住民を巻き込んだまちづくりが必要である。しかし、区画整理で出来た新興住宅地では住民同士の繋がりが弱いのではないか・・・アンケート結果によると80%の住民が一週間での近隣住民との交流が2回以下と回答。日常での主な交流の場は自治会のイベントやお祭りなどであった。住民同士の繋がりは自治会や自治会やお隣会といったものであり、新しくこの町に住み始め、すぐに参加することは難しい。このような点から区画整理進行後、以前に比べ住民同士の交流関係は希薄になってきている。

80%の住民が一週間の中で近隣住民との交流が2回以下と回答

一週間の中で何回近隣住民と話しますか



1回未満と回答したのは全体の43%であり、約半数の住民が近隣住民との交流が無い事が分かりました。一回未満と回答した人は就職によりアパートで一人暮らしをしていたり、新しく引っ越しをしてきた人が多く、自治会に所属していない人が大半でした。一方で3回以上交流のある方は自治会でのイベントなどで定期的に地域住民と交流の機会がある方でした。

03 方法

住民同士を巻き込むためにまず、地域住民が関わる機会を作りました。

02 目的から分かる通り、日常での交流の場は自治会のお祭りやイベントなどであった。しかし、新型コロナウイルスの影響などを受け、イベントや自治会主催のお祭りも中止せざる負えない状況が続いた。そんな中、小山東部第一地区に新たな広場であるプレイパーク109が誕生した。令和4年は比較的新型コロナウイルスによる警戒状態が高くなかった

事もあり、新しく出来たプレイパーク109で住民同士での交流が出来るイベントを発売しました。



住民と協力し、0からスポーツイベントを企画・開催しました。

ニュースポーツフェスタ109と題し、つどいの場109と学生からなるニュースポーツフェスタ109実行委員会を作成、度重なる会議を経て、小山市でモルックを推進して下さっているモルックfan様、あいおいニッセイ同和損保様ご協力の元、キッチンカー3台にもお越しいただきました。当日は晴天に恵まれ約50名の参加者にお越し頂きました。

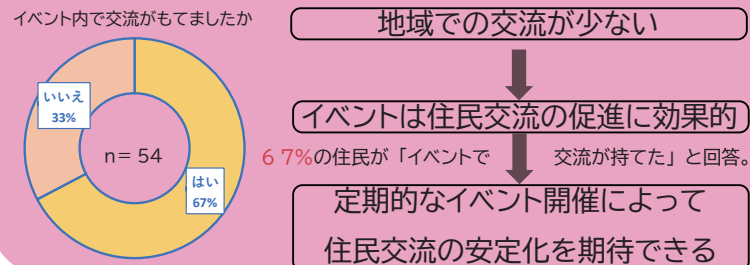


04 分析結果

イベントは住民交流の促進に効果的であることが分かりました。

アンケート結果より、地域での交流が少ないと回答した方は全体の2/3である66%にのぼりました。アンケート回答の際には「毎年恒例のイベントがコロナでなくなってしまって交流出来なくなってしまった。」・「そもそも外出の頻度が減った」という声を頂きました。イベントの開催を望むか？という問では92%の住民が「イベント開催を望む」という回答をしました。イベントの例として「マルシェ」や「お隣会」などといったコロナ以前に行われていたイベントが多く挙げられました。又、地域住民の交流の場としてイベントは効果的であり、イベントの継続的な開催を希望する声もありました。

66%の住民が「地域での交流が少ない」と回答。
92%の住民が「イベントの開催を望む」と回答。



05 提案

住民の交流を継続するために地域交流イベントの定期的な開催を提案します。

今回、私たちはイベントを行い、住民の交流を促進することが出来ました。しかし、一度だけのイベントでは地域の交流は持続していきません。そこで自治会とは別の新しい地域コミュニティとして、現在活動中のつどいの場109を正式なまちづくりの団体である「まちづくり研究会」にすることでイベントの定期開催、継続的な地域交流をめざします。「まちづくり研究会」に認定されると小山市から支援金などが出るため、より定期的にイベントを開催し、地域住民の交流をすすめる事が出来ます。

つどいの場109・まちづくり研究会

